ブルーベリー

# $CO_2$を局所施用

## 丸浜柑橘農協連と東京農工大

### ボンベで供給 目標10%増収

丸浜柑橘（かんきつ）農協連は、東京農工大学と共同で、ブルーベリーの二酸化炭素（$CO_2$）施用の実証試験を始めた。$CO_2$施用は、灯油などを使う燃焼式の装置が普及しているが、同連では液化二酸化炭素のボンベから樹体の周辺に局所施用する。統合環境制御によりハウス内の環境を適切に管理し、10%の増収を目指す。

同連は18人が約4ヘクタールでブルーベリーを栽培。昨年は約30トンを出荷した。ハウス栽培は約3ヘクタールで、うち約半分が加温栽培で2月から出荷する。

$CO_2$施用は光合成を高めて収量を増やす技術で、果菜類や花きで普及している。果樹では、他県の温州ミカンやブルーベリー農家が一部で取り組んでいるが、まだ一般的な技術ではない。

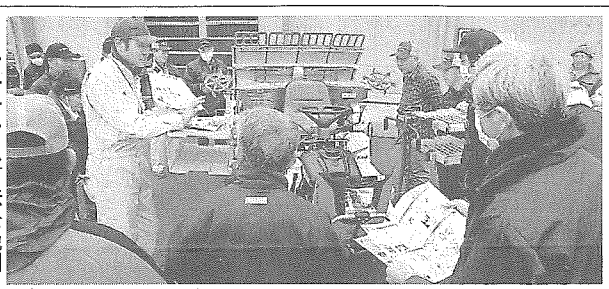
同連は、国の事業を受け、光合成促進装置「コンダクター」（テヌート）を、昨年11月に農家のハウスに導入し、12月から実証試験を始めた。この装置は、ハウス内外の環境データを蓄積し、携帯端末で遠隔監視できる。

また、外のボンベから$CO_2$をハウス内に取り入れ、発光ダイオード（LED）で補光もして、光合成を促進する。

同連でブルーベリーを担当する、浜松業務課の土屋尚之次長は「燃焼式はハウス内全体の温度を上げ樹勢を落としてしまう恐れがあるので、液化$CO_2$を選んだ」と説明する。オランダでは液化$CO_2$が普及しているが、日本ではコストが低い灯油やガス利用が多い。

試験では、施用するハウス2棟30アールと、施用しない2棟30アールを設けて、収量などを比べる。$CO_2$は、細かい穴の開いたチューブから施用する。県も協力してデータをまとめ、マニュアル化する考えだ。土屋次長は「10アール当たり収量を、産地全体で平均1トンに高めたい」と期待する。（静岡）

ポット栽培のブルーベリーに液化$CO_2$を局所施用する実証試験



メンテナンス方法を説明するメーカー担当者

## 農機メンテナンス事故防止策を学ぶ

三重・JA鈴鹿

【三重・鈴鹿】JA鈴鹿は14日、鈴鹿市の天名支店で農業機械の安全運転やメンテナンス方法を学ぶ講習会を開いた。農繁期の前に、農業機械のトラブルや作業中の事故防止を目的にしている。組合員ら約30人が参加した。

会場では、メーカーのトラクターを使い、メーカー担当者が実演を交えながら説明。メーカー担当者は、作業中に起きやすい事故や日頃から点検すべき項目をパンフレットを使って説明した。

担当者は「特に、農繁期の前に、日頃のメンテナンスや作業後の清掃で、安全に機械を使用できるよう、しっかりと実践してほしい」と呼び掛けた。

JA担当者は「農機具を使用した時期や、故障などの相談を受けることが多い。農繁期前に、試運転やメンテナンスを行い、準備をしてほしい」と話した。

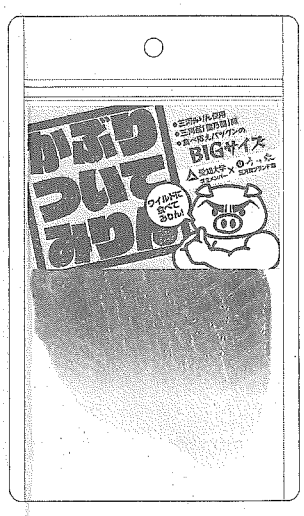
JAでは、農繁期前に管内10支店のトラクターで草刈りやエンジンソーなどの農機具の整備会も行う。（三重）

「ねぎとみつばジェラート」をPRする職員

## 三河産豚肉を使 ジャーキー

醸」を使用したポークジ

「名産品開発ワーキング 生かして発案した。



▶㊤ポークジャーキー「かぶりついてみりん」
▶㊦「雪のポークジャーキー～三河産しそパウダーを添えて～」

（あいち）

東北 支援へ 岐阜 【岐阜】 Aグループ る県農業 実行委員 市のJA 県（福島、